

令和6年度全国学力・学習状況調査の結果の概要について

令和6年8月27日
学 校 教 育 課

1 実施概要

- (1) 実施日 令和6年4月18日（木）
- (2) 対象学年 小学校第6学年・中学校第3学年
- (3) 実施教科等

ア 教科に関する調査

- ・小学校第6学年：国語、算数
- ・中学校第3学年：国語、数学

注：「主として『知識・技能』に関する問題」と「主として『活用』に関する問題」とを一体的に問う問題が出題されている。

イ 質問調査

- ・学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する児童生徒に対する調査
- ・学校における指導方法に関する取組等の学校に対する調査

注：1人1台端末等を用いたオンライン方式により実施

2 平均正答率の状況

	国語			算数・数学		
	京都府 (京都市含む)	京都府 (京都市除く)	全国	京都府 (京都市含む)	京都府 (京都市除く)	全国
小学校	70	68	67.7	67	65	63.4
中学校	59	58	58.1	53	52	52.5

注：都道府県別の平均正答率については、整数値のみ公表することとされている。

3 結果の概要

○ 教科に関する調査

小学校、中学校ともに、全ての教科で平均正答率が全国平均以上であり、下位層(C, D層)の割合が中学校数学以外は全国値よりも低く、中学校数学は全国と同程度である。

○ 質問調査

京都府においては、授業におけるICT機器の使用頻度が全国に比べて高い。

4 教科の概要（京都市を除いている。）

- 全国と比較して、D層（下位）の割合は少ない傾向にあるが、小学校算数以外においてはA層（上位）の割合も少ない。
- 領域や観点によって、全国平均を下回っているものもあるが、全国の傾向と大きな違いはない。

(1) 小学校国語

- ・他の領域に比べ、書くことの領域に課題が見られる。目的や意図に応じて、事実と感想、意見とを区別して書くなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができるかどうかを見ること（府正答率53.5%）に課題がある。

⇒考えの形成を基に記述する資質・能力に関して系統的に指導することが重要。各目的や意図を明確にした上で、詳しく書く必要のある場合や簡単に書いた方が効果的である場合などを判断しながら書き表し方を工夫することが重要

- （条件）
- 「たてわり遊び」のよさについて考えたことを書くこと。
- 「高山さんの取材メモ」の下級生に聞いたことから言葉や文を取り上げて書くこと。
- 六十文字以上、百字以内にまとめて書くこと。

【高山さんの文章】

みんな仲よし「たてわりはん」

わたしたちの学校には、1年生から6年生までのメンバーが、同じはんで活動する「たてわりはん」の取り組みがあります。「運動会」や「たてわり遊び」を通して、ちがう学年の人とも仲良くなります。

「運動会」は、「たてわりはん」ごとに赤、青、黄の色を決め、3色対こうで行います。上級生が下級生に伝えんの仕方を教えたり、下級生も楽しめるように、きょうぎの作戦を考えたりします。「みんなでつな引きをして楽しい」という2年生や、「下級生といっしょに伝えんして熱い戦ちになる」という5年生がいます。このように、「運動会」のよいところは、みんなの心が一つになるところだと思います。

「たてわり遊び」は、毎月1回、休み時間に「たてわりはん」で遊ぶ活動です。みんなが楽しめるように、6年生が、遊びたいことを下級生に聞いたり、ルールをくふうしたりします。例えば、ドッジボールでは、上級生が遠くからボールをいけるようにしています。

【高山さんの取材メモ】

「たてわり遊び」について

6年生がくふうしていること

- 遊びたいことを下級生に聞く
- ルールをくふうする
- ドッジボール 上級生は遠くからボールをいける

下級生に聞いたこと

- 1年生 お兄さんやお姉さんと遊べて楽しかった
- 3年生 好きな遊びや新しい友達が増えた
- 4年生 みんなが楽しそうであれしかった

- 二 高山さんは、次の「高山さんの文章」の考えた「たてわり遊び」のよさを書こうとしています。あなたが高山さんなら、内容をどのように書きますか、あとの条件に合わせて書きましょう。
- 2 高山さんの学校では、学校のよさを伝える文章を書くことになりました。高山さんは、学校のよさを考えながらメモを書き、文章に書くことを決めました。次は、「高山さんのメモ」と「高山さんの考え」です。これらをよく読んで、あとの問いに答えましょう。
- に、「高山さんの取材メモ」をもとにして、
- に入る

条件の一つ目を満たしていない誤答が36.6%

(2) 小学校算数

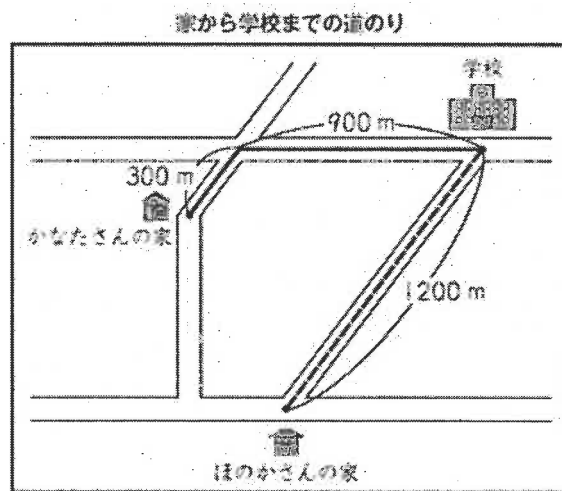
- ・他の領域に比べ、変化と関係の領域に課題が見られる。特に、道のりが等しい場合の速さについて、時間を基に判断し、その理由を言葉や数を用いて記述すること（府正答率34.5%）に課題がある。

⇒速さ、時間、道のりの関係を正しく理解し、日常の場面に対応させたり、言語を用いて互いに説明し合ったりする指導が重要

4

あいなさんたちは、時間や速さなどについて考えています。

- (3) かなたさんとはのかさんは、それぞれの家から学校まで歩いて行きました。



家から学校までの道のりは、上の図のとおりです。

家から学校まで、かなたさんは20分間、ほのかさんは24分間かかりました。

それぞれの家から学校までの歩く速さを比べると、かなたさんとはのかさんのどちらが速いですか。

下の 1 と 2 から選んで、その番号を書きましょう。

また、その番号を選んだわけを、言葉や数を使って書きましょう。

1 かなたさん

2 ほのかさん

速さを比較するのに、2人が歩いた道のりが等しいことだけを書き、時間について書いていない誤答が31.3%

(3) 中学校国語

- ・読むことの領域に課題が見られる本文と本文中の図とを結びつけ、その関係を踏まえて内容を解釈すること（府正答率34.7%）に課題がある。

⇒文章と図表の関連には、断片的な情報が互いに内容を補完し合っている場合、文章が図表の解説になっている場合などがある。よって、それぞれどの部分とどの部分とが関連しているのかを確認することが重要

2

次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

「図 ささまざまな形の葉」の本文中での役割を説明したものととして適切なものを、次の1から4までの中から1つ選択しなさい。

1 実際の葉の形をたくさん思い浮かべることができるように補助する役割。

2 実際の葉の形とそれを表す言葉とを結び付けて捉えられるようにする役割。

3 葉の形を表す言葉を二つのグループに分けるやり方が複数あることを示す役割。

4 葉の形を表す言葉の中では厚み方向の形容が限定的であることの根拠を示す役割。

1 と解答し、2 と解答していない誤答が27.5%
2 と解答し、1 と解答していない誤答が26.1%

(4) 中学校数学

- ・数量及び数量の関係を捉え説明する場面において必要となる、事象に即して解釈したことを数学的に表現すること（府正答率31.0%）に課題が見られる。

⇒単なる文字を用いた式の表し方として覚えるのではなく、数量やその関係と関連付けて理解することが重要

- 1** 連続する2つの偶数を、文字を用いた式で表します。 n を整数とするとき、連続する2つの偶数を、それぞれ n を用いた式で表しなさい。

偶数を $2n$ で表しているが、連続する2つの偶数の差が2であることを理解しておらず $2n$ の次の偶数が $4n$ になっている誤答が12.1%

2つの連続する偶数の差が2であることは理解しているが、偶数を $2n$ としておらず、 n , $n+2$ となっている誤答が11.2%

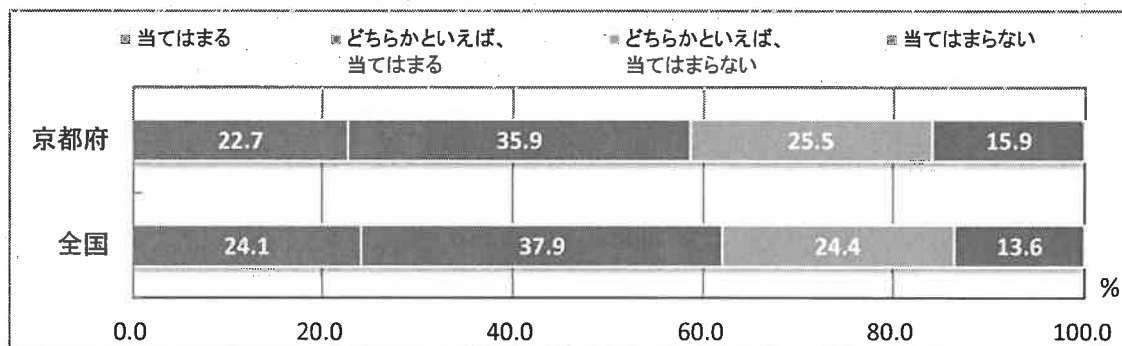
偶数を $2n$ で表すことも、連続する偶数の差が2であることもいずれの性質も含まれていない誤答が11.3%

5 質問調査結果の概要

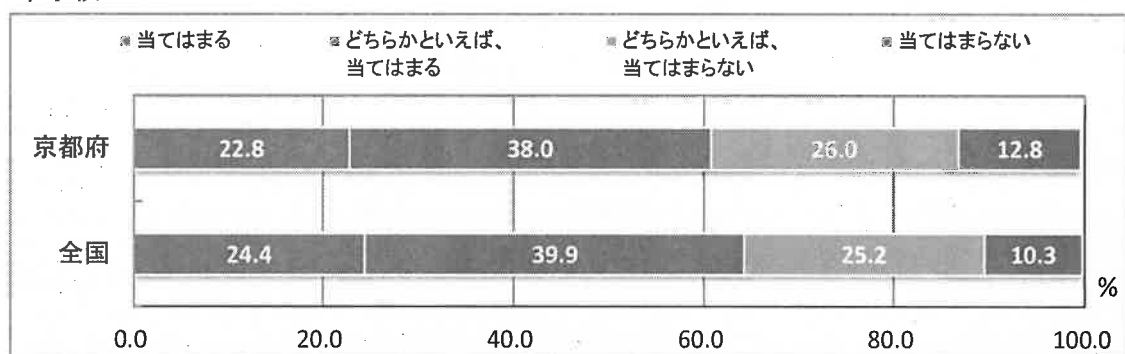
＜児童生徒に対する調査＞

Q 国語の勉強は好きですか

小学校

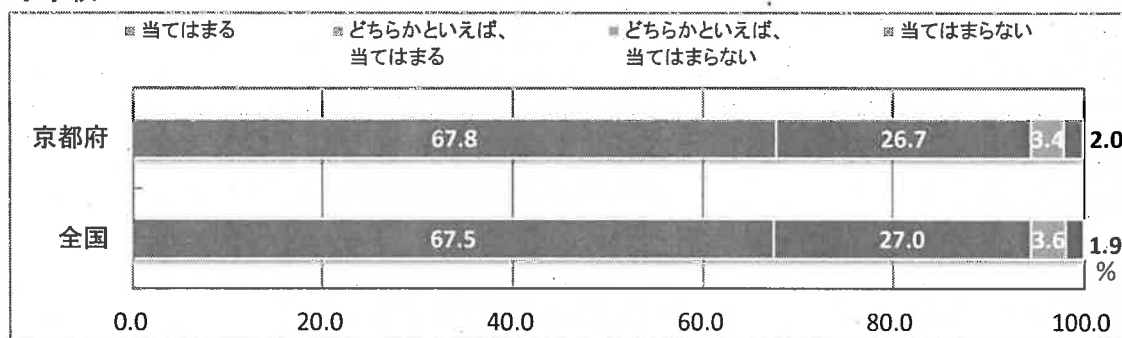


中学校

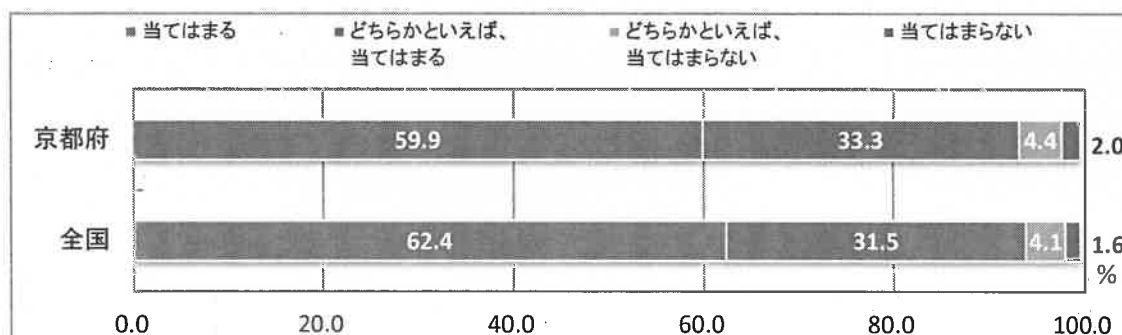


Q 国語の勉強は大切だと思いますか

小学校

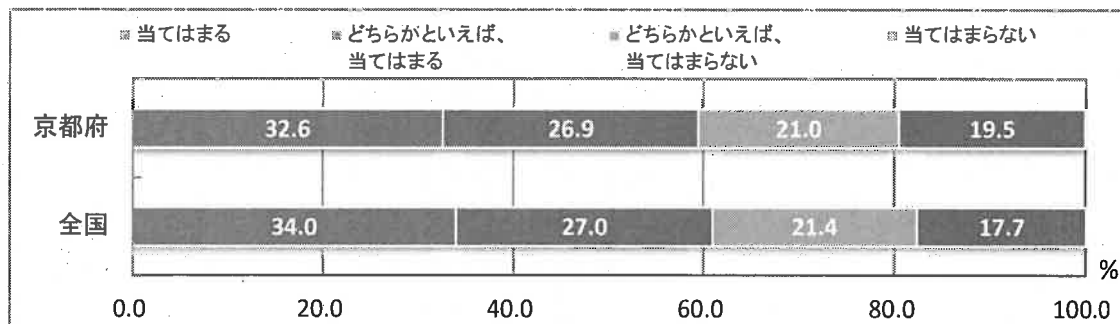


中学校

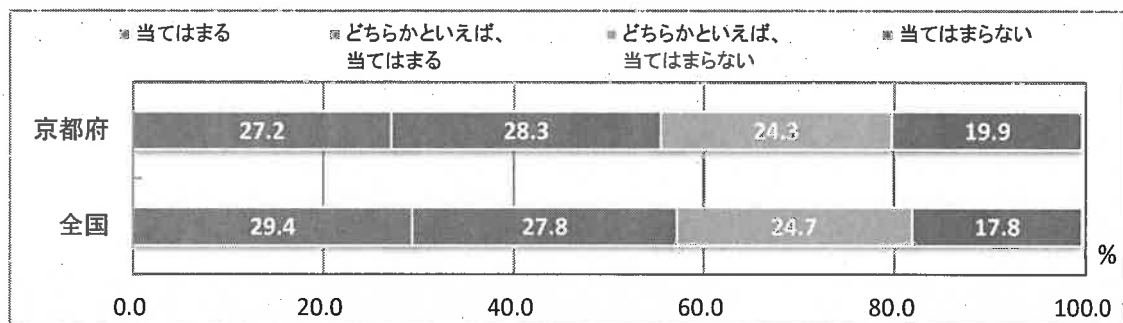


Q 算数[数学]の勉強は好きですか

小学校

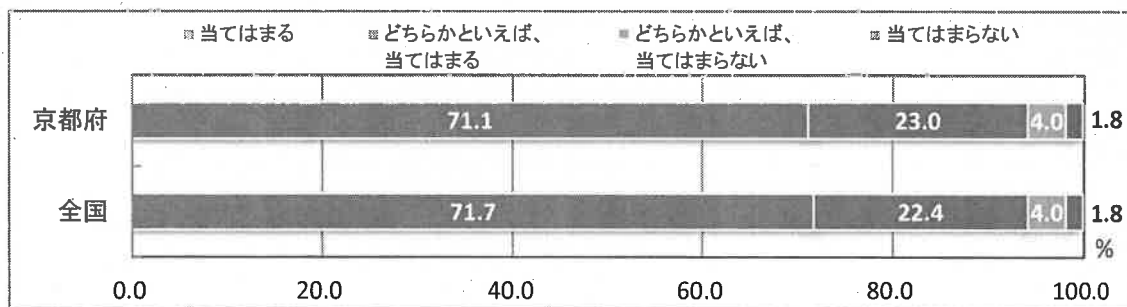


中学校

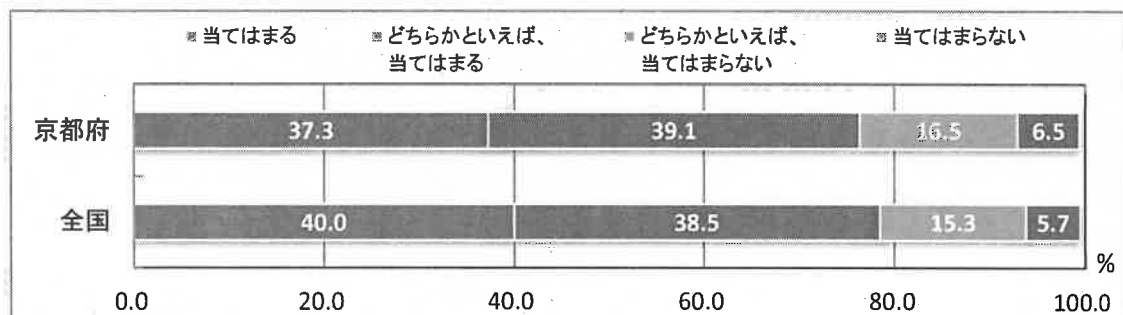


Q 算数[数学]の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか

小学校

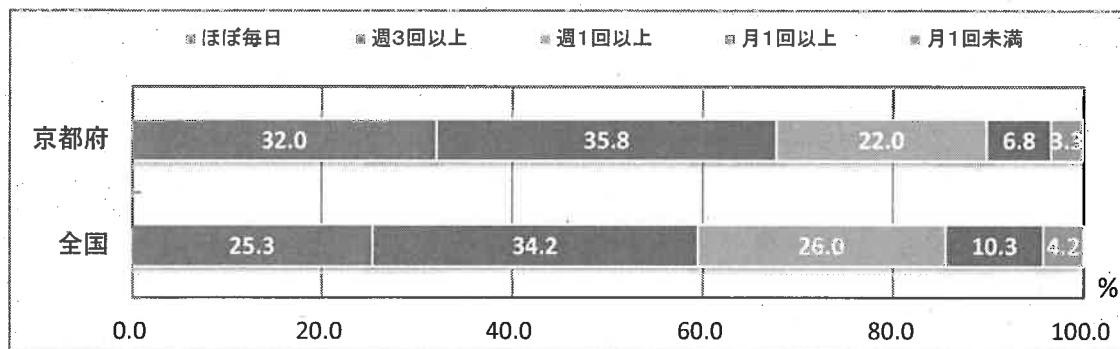


中学校

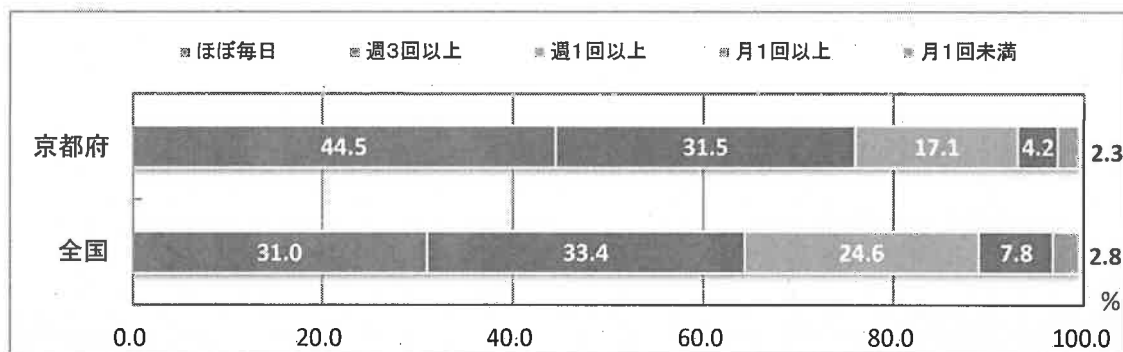


Q 5年生までに[1、2年生のときに]受けた授業で、PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使用しましたか

小学校

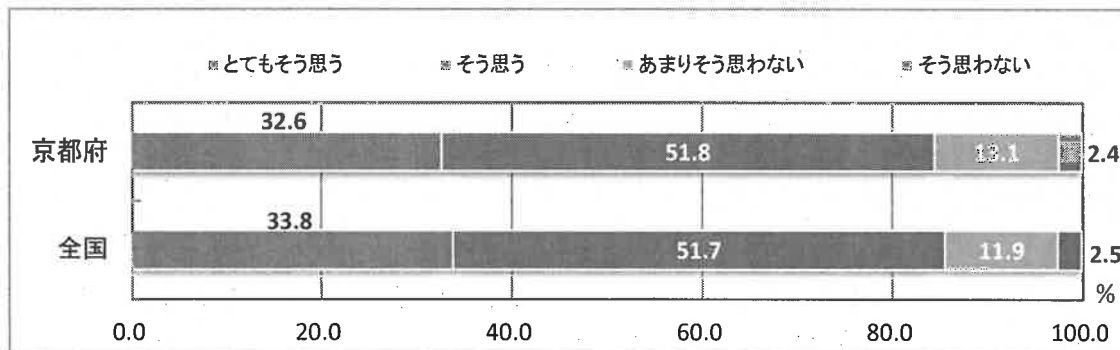


中学校

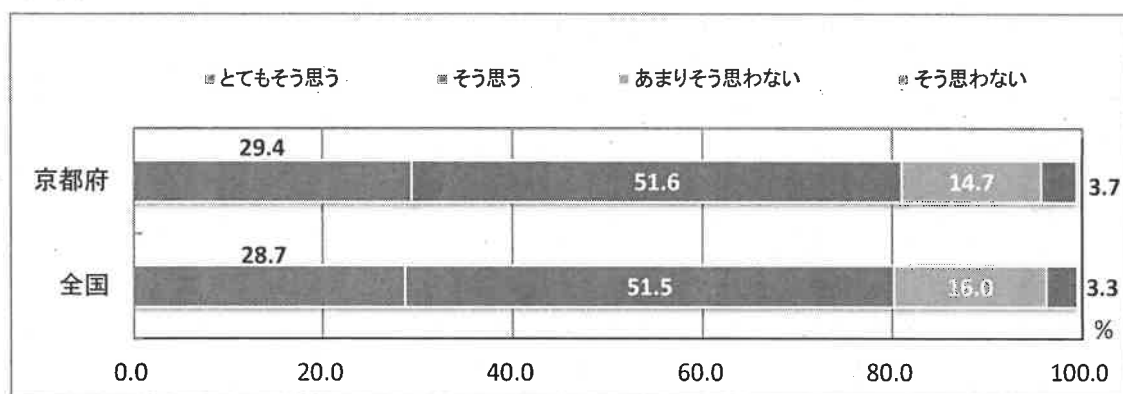


Q 学習の中でPC・タブレットなどのICT機器を活用することで、自分のペースで理解しながら学習を進めることができる

小学校

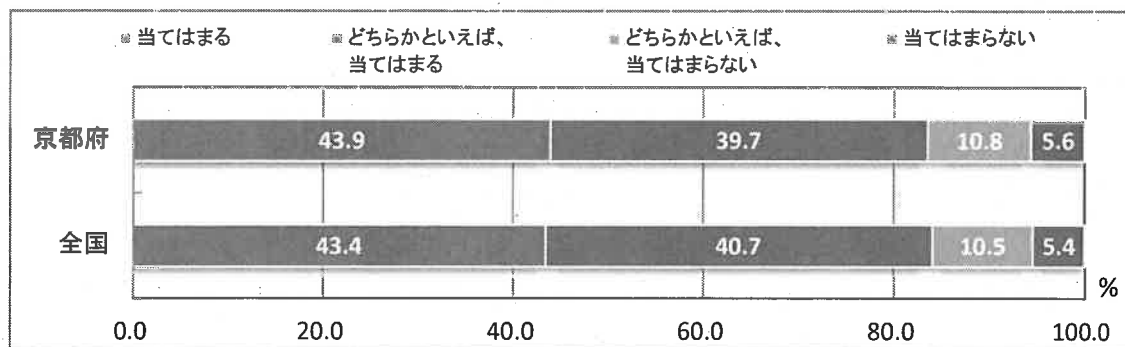


中学校

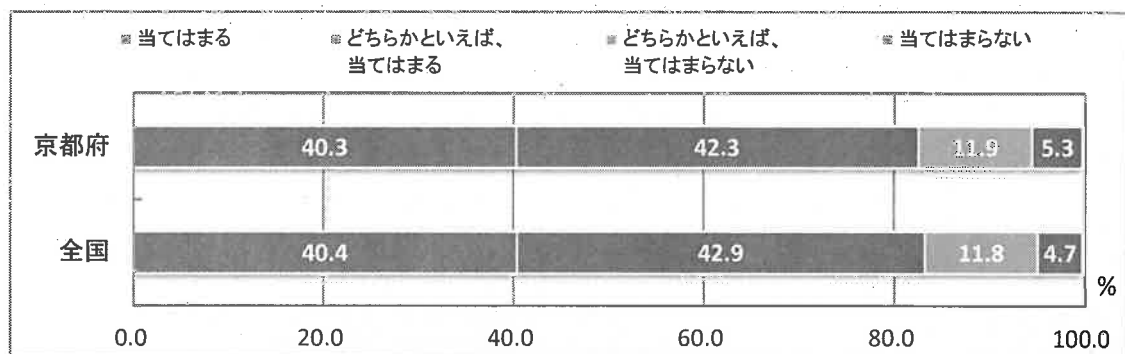


Q 自分には、よいところがあると思いますか

小学校

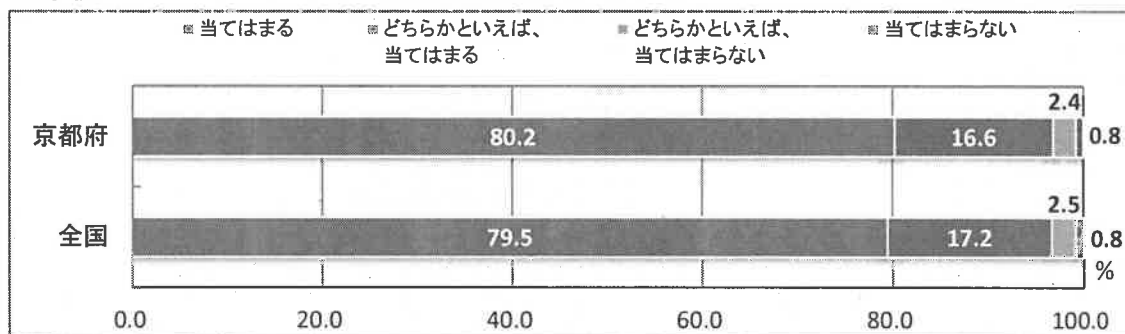


中学校

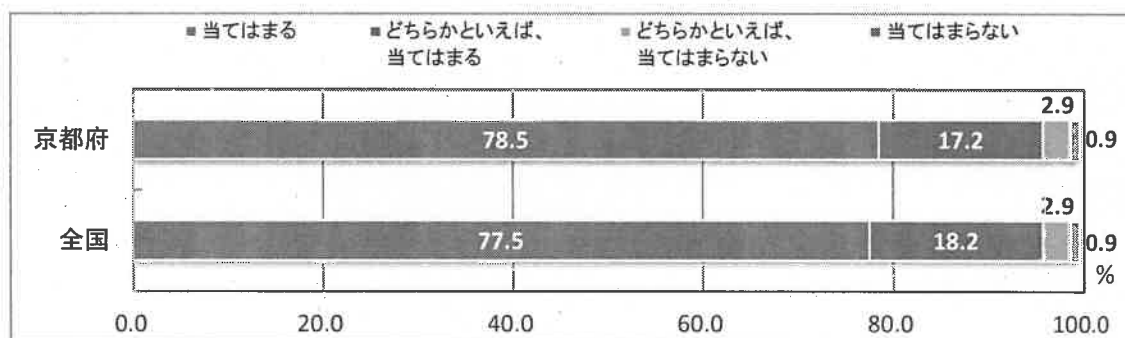


Q いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか

小学校



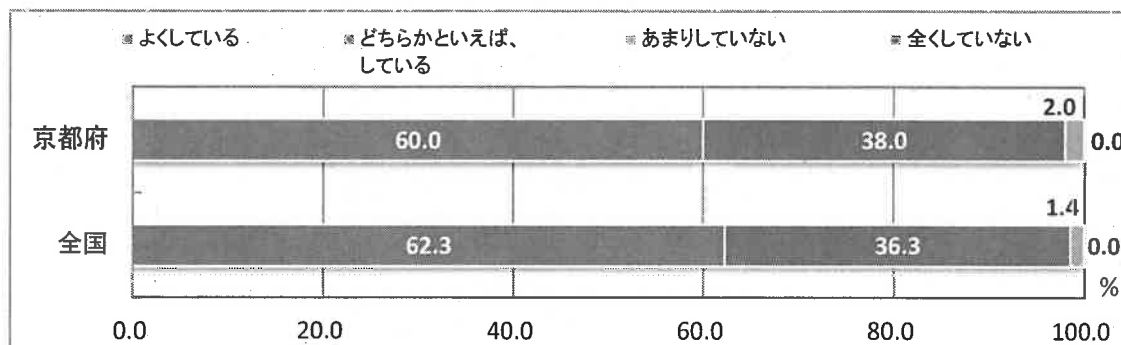
中学校



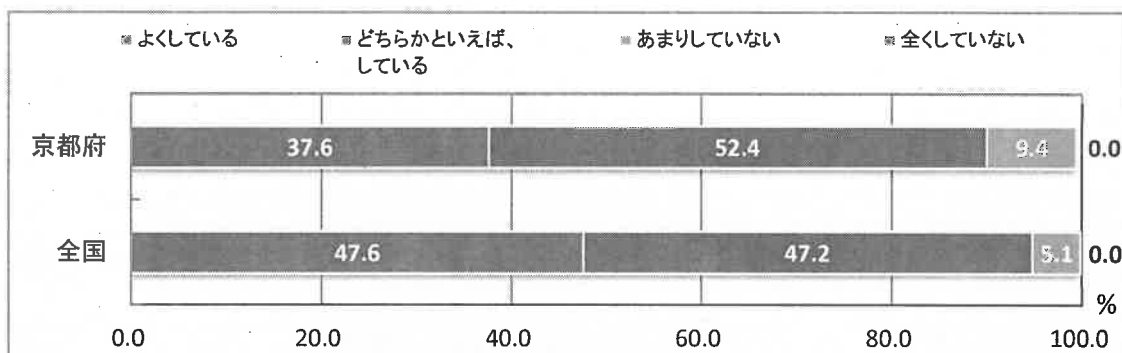
<学校に対する調査>

Q 授業研究や事例研究等、実践的な研修を行っていますか

小学校

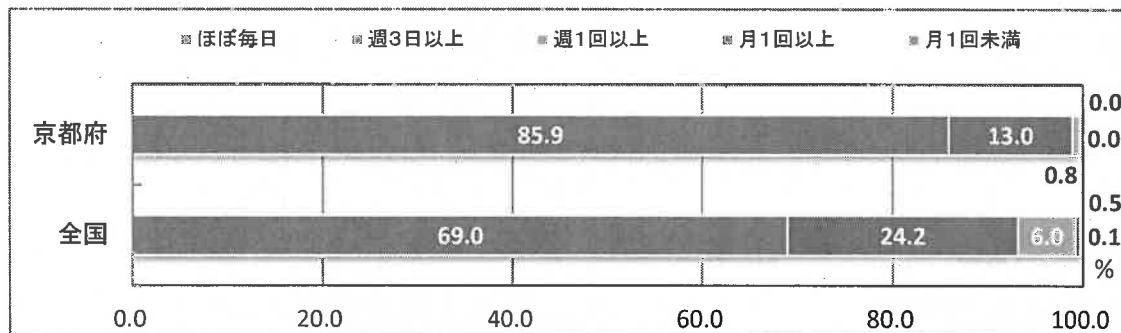


中学校

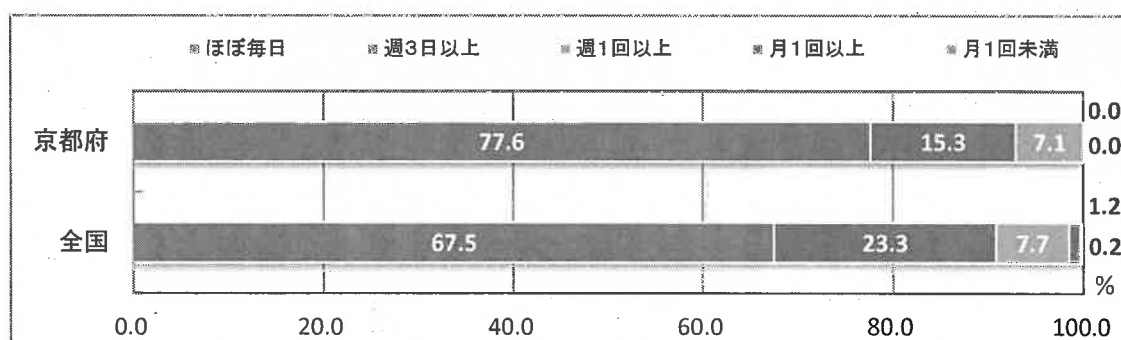


Q 調査対象学年の児童生徒に対して、前年度までに、児童生徒一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器を、授業でどの程度活用しましたか

小学校

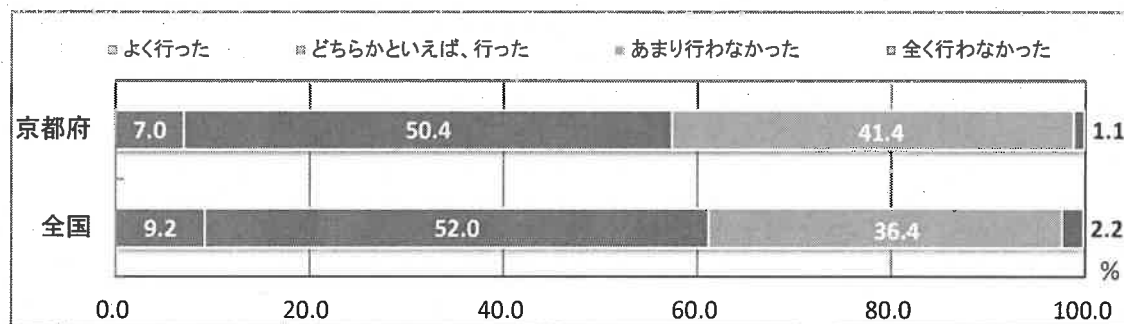


中学校

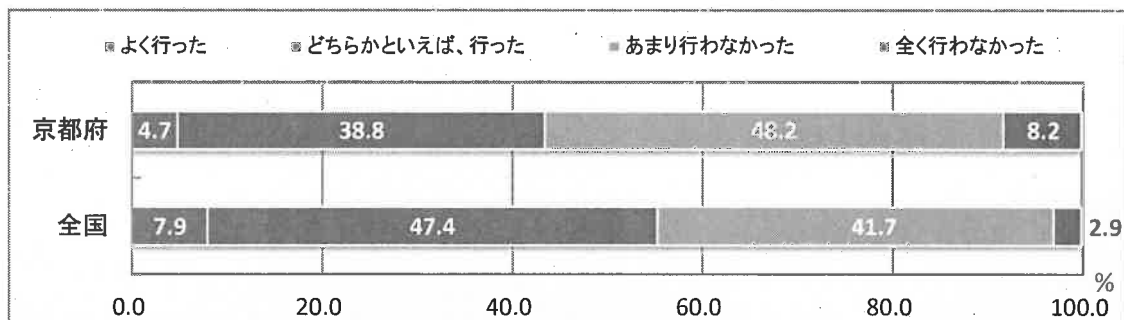


Q 調査対象学年の児童生徒は、授業では、自分で学ぶ内容を決め、計画を立てて学ぶ活動を行っていると思いますか

小学校

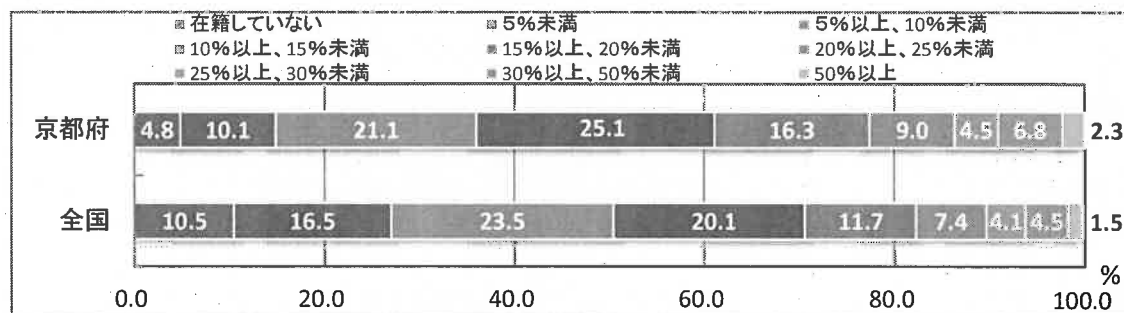


中学校

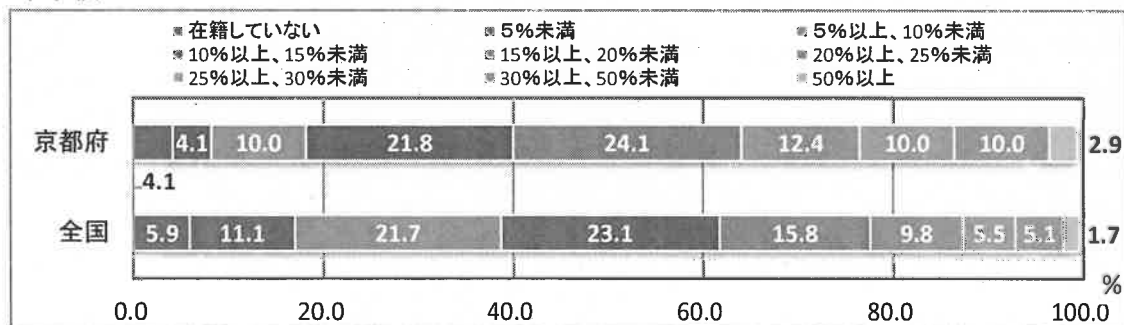


Q (調査対象学年の児童生徒について) 就学援助を受けている児童生徒の割合は、どれくらいですか

小学校



中学校



資料

令和6年度全国学力・学習状況調査結果の教育局別概要について

1 教育局別の状況

(1) 平均正答率

- 府内各地域の状況を教育局別の平均正答率で示しています。
- 各教育局別の平均正答率は、小学校、中学校ともに概ね全国平均に近い値ですが、教科毎にみると一部に課題が見られます。

小学校	国語	算数
全国	67.7	63.4
京都府	70	67
乙訓局	72	70
山城局	67	66
南丹局	64	61
中丹局	68	65
丹後局	66	63

京都市含む

中学校	国語	数学
全国	58.1	52.5
京都府	59	53
乙訓局	61	56
山城局	57	51
南丹局	56	48
中丹局	57	49
丹後局	58	52

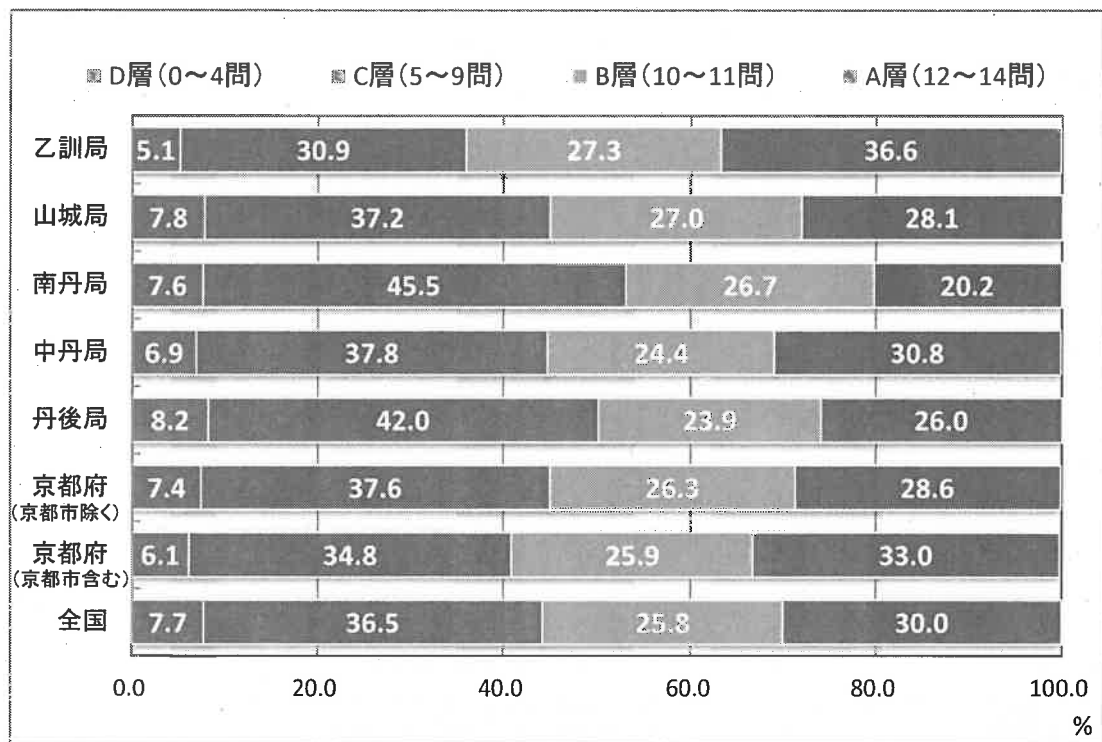
京都市含む

(2) 児童生徒の学力状況（正答数分布状況より）

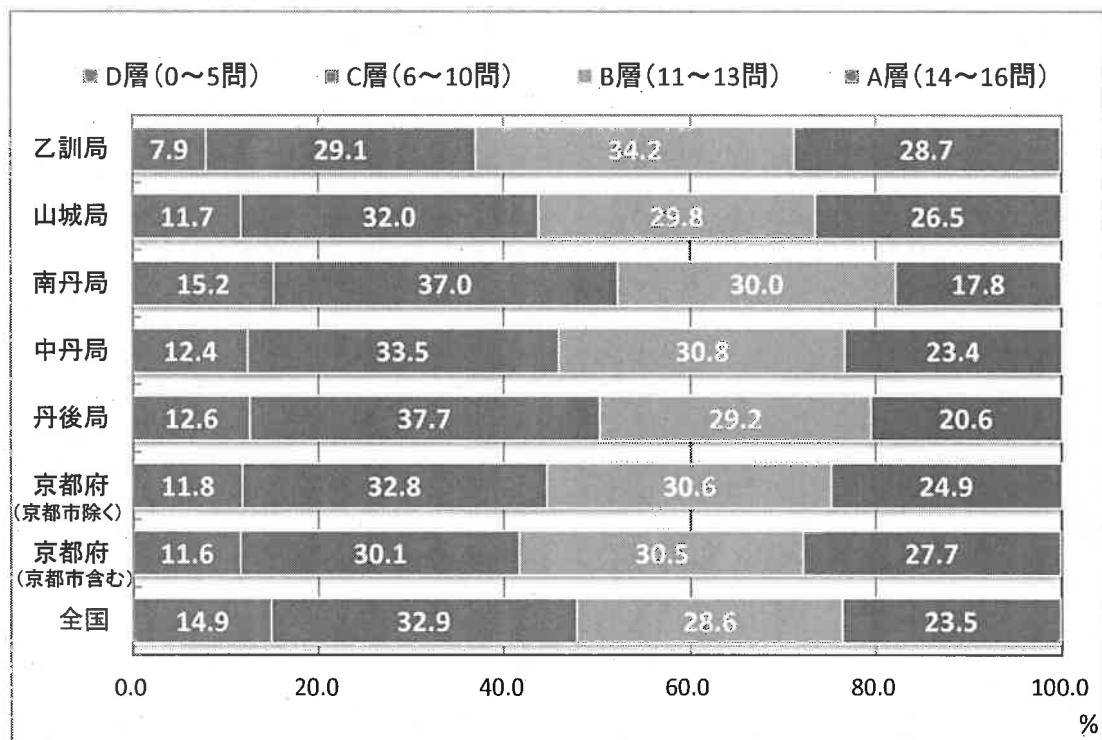
- 次の正答数分布状況グラフは、児童生徒をその正答数によりA層からD層までの4群に分け、それぞれの人数の比率を示したものです。
- 各教科・各年度の平均正答数以上の児童生徒をA層（上位）、B層（中上位）、平均正答数未満の児童生徒をC層（中下位）、D層（下位）にそれぞれ二分割して分析します。
例えば小学校国語の出題数は14問あり、全国平均正答数が9.5問です。したがって、0～4問がD層、5～9問がC層、10～11問がB層、12～14問がA層となります。

◆小学校第6学年正答数分布状況

ア 国語

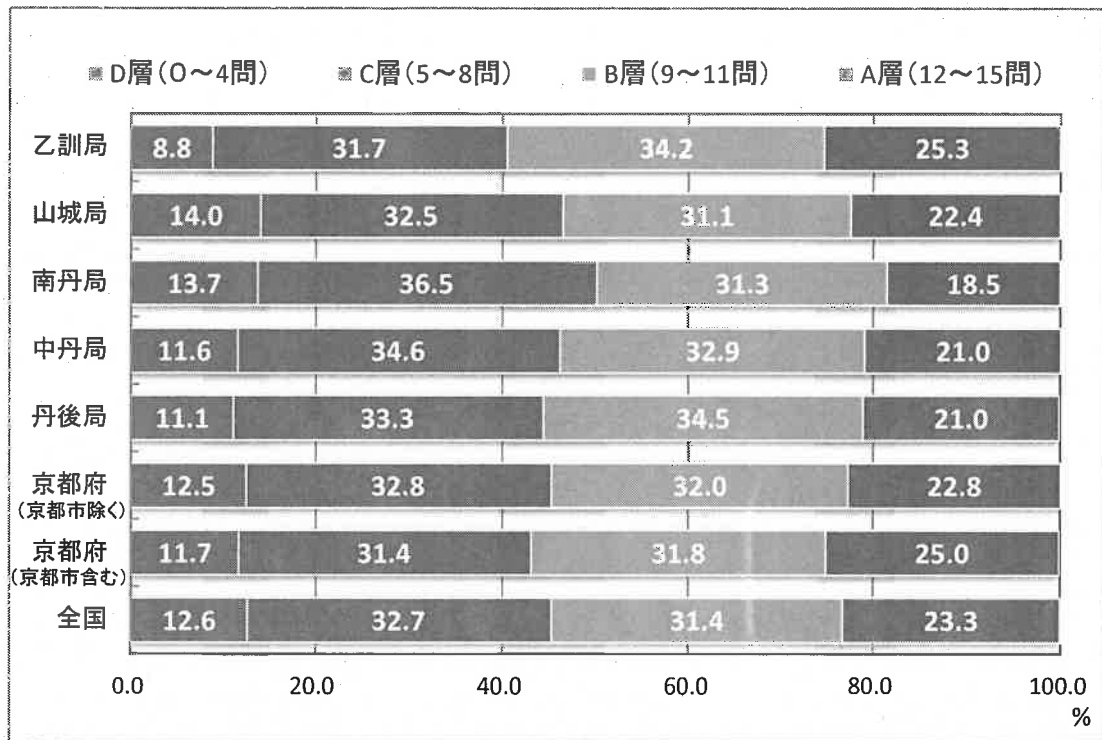


イ 算数



◆中学校第3学年正答数分布状況

ア 国語



イ 数学

